

岡山市は、国から認定された総合特区に基づき全国で唯一行っている介護機器6種類のレンタル事業の中間成果をまとめた。主に認知症の人のコミュニケーション力や問題行動の改善を目的としたロボット2種類

は、いずれも一定の効果が見られた。ただ、他の4種類も含めて利用者数は伸び悩んでおり、精度の高い検証を行うためにも一層の啓発が求められている。（二羽俊次）

総合特区の市 介護機器レンタル中間成果

認知症向けロボに効果



介護保険制度で給付の対象外となっている6機器を介護保険適用と同じ1割負担で希望者に貸し出している。7年度まで成果を検証

し、成果が確認できれば18年度以降、介護保険の給付対象品目に加えるよう国に働き掛ける。

アザラシの形をしたロボット「パロ」は人

工知能が内蔵されており、なでると鳴いたり目を細めたりする。14年2月～15年3月、歩き回る、暴力を振るうといった認知症の問

男児を模したロボット「うなずきかぼちゃん」は、話し掛けると「うん」「そうなんだ」といった認知症の質問に「400語の返答がある」と認知症行動障害の調査で利用者約20人の健康状態が平均で7ポイント時は平均で23・2点だったが、14カ月後には3・2点と20ポイント改蔵のエアマットをふとん

利用は伸び悩み 啓発強化 詳細な検証へ

総合特区 国が2011年度に設けた制度で「国際戦略総合特区」と地域の活力を高める「地域活性化総合特区」の2種類。岡山市は13年2月、地域活性化で指定を受け、デイサービスにより要介護度を改善させた事業所に奨励金を支給するデイサービスインセンティブ事業なども行っている。成果が実証されれば、同様の取り組みが全国で実施されるようになる。

の下に敷いておけば、要という。市は機器を介護者が寝ているかどうか紹介するちらしを要介かを離れた場所からでも確認できる「おだやかタイム」、介助者が要介護者の体位変換を手伝う際に使用する腰部サポートウェア「ラクニエ」など、利用者から好意的な意見が寄せられているという。

しかし、利用者は、多い「うなずきかぼちゃん」でも計約100人、4機器も各1～40人にとどまっている。短期間で解約し、効果が検証できないケースも少なくな

市は13、14年度に公募して6機器を選定。16年度に新たに数種類を追加する予定。